

2025/11/1 感想：その3

(中3男子)

戦争が終わったあと、外国にいた日本人が日本に引き揚げたのは学校の授業で知ってたけど、引き揚げを実際に経験した人の話は聞いたことがなかったので、現代の日本からは考えられない、負の歴史を間近で聴けて貴重な経験になりました。

(20代女性)

生きる事への感謝と、平和への力強いメッセージを受け取りました。ありふれた日常が全く無い、過酷で、冷たく、苦しい引き上げの話を聞けたこと、本当にありがとうございます。思い出すのもしんどい事を、平和の為にと、お話してくださった篠原さんには感謝しきれません。大変なお気持ちをしっかり受け止めて、平和な今を、命を生きる今を、日々、積み重ねていきたいです。

(20代男性)

この度は、貴重なお話を頂き誠にありがとうございました。私は未だ20代の飽食で娯楽にも富む時代に生まれ育った人間ですので、篠原様の乗り越えられてきた経験の辛さ、苦しみは察するに余りあるものであると感じます。それと同時に、今後日本で生きていく一人の人間として、二度と戦争を繰り返してはならない、繰り返す日本にしてはならないと強く責任を覚えるところであります。

お話をいただいた中でも、最も強く記憶に残るのは「命を繋ぐ」というお言葉です。学生の頃より、戦時中の記録について学習する機会こそ多くあれど、当時はそれらを自身の生き方、考え方まで思考を巡らせる機会は少なかったように思います。ですが、私たちは戦時中の記憶をお持ちの方から直接話を伺える最後の世代となります。

今回のお話の「命を繋ぐ」という言葉により、それらの記憶、記録を受け継ぐものとして、先に書いたような責任や平和な日本を維持するための行動を考え直す機会となりました。

今は仕事に忙殺される日常が続いている身ではありますが、将来の自分、日本にも目を向けて日々を過ごしていくこうと思います。

改めて、今回は貴重なお話をください、ありがとうございました。

(50代女性)

辛い子ども時代の事を紐解き、語っていただくことで戦争の悲惨さを伝えていただき、心から感謝いたします。

又、禮子さんの生き方が、本当に素晴らしいので、生きることのお手本として、これから的人生を強く、人と助け合って、人を許し自分を許して、感謝して生ききりたいと思いました。

平和を保ちつつ、世界に向けて何ができるのか、真剣に考えないといけない時代に入って来たと感じる中で、Leadさんにはこのような会を企画していただき、本当にありがとうございました。

ざいました。

大人は戦争について、子ども達にもっともっと伝えていかないといけないですね。

世界平和について、皆が真剣に考えていけたらと思います。

(中1女子)

今年の夏は、LEADで朝鮮植民地時代について学び、現地へのフィールドワークも行いました。なので、朝鮮と日本の歴史を踏まえた上での関係性が少し分かったのはもちろんでしたが、植民地時代に日本から朝鮮に渡った後、朝鮮独立の瞬間に始まった試練に立ち向かう必要があった人々のことは今回のお話会で初めて知りました。

家族の死、失踪、空腹、服にわくシラミ…今の私の生活では考えられないことだし、絶対に体験したくないと思いました。しかし、体験したくないことを体験せざるを得なくさせてしまうのが戦争だとも気づき、少し恐ろしくなりました。今、もし日本が戦争をすれば、私だって同じ状況に陥るかもしれないからです。

誰かにとっては嬉しく、記念すべき日である8月15日が、他の誰かにとってはその真逆の、苦労の連続が始まる日だったということがとても印象的でした。そして、戦争は「誰かが100%悪い、悪くない」という考え方で片付けてはならず、どの国が全てにおいて被害者や加害者であるということはあり得ないのだから、視野を広げて相手の立場に立って考えることが戦争を止める第一歩なのではないか、と私は思います。